

もくじ

- 第13回兵庫県立病院学会を担当して ①
- 診療科紹介 外科 ②
- 診療科紹介 麻酔科 ③
- 部署紹介 栄養管理部・NST (栄養サポートチーム) 委員会 ④

第13回兵庫県立病院学会を担当して

副院長 中村 毅

ご存知の方も多いと思いますが、兵庫県は兵庫県立病院群で県立病院学会を毎年開催しています。地域の中核病院である兵庫県立病院が直面する課題をテーマとして取り上げる形で基調講演とシンポジウムが計画され、その間の時間に、先進医療やがん医療・調査研究・患者サービスなど16項目による分科会の発表が行われます。今年は、9月5日(土)にポートアイランドの兵庫医療大学



をお借りして私ども県立加古川医療センターが担当で第13回兵庫県立病院学会を催しました。多職種によるチーム医療がすべての根本であることと今年が震災20年であることならびに当院が第1種感染症指定病院であることや救急救命センターを有していてドクターヘリの基地病院であることなどから今年のテーマは「チーム医療と危機管理」といたしました。基調講演は東日本大震災の時に公立志津川病院で被災された菅野武先生にお願いし、シンポジウムは多職種の方にお話をしてもらおう形が県立病院学会らしいと思い、兵庫県災害医療センター長・兵庫県健康福祉部参事兼疾病対策課長・県立柏原病院検査主任技師・当センター医療安全部次長・県立尼崎総合医療センター救急認定薬剤師の5名の方々にシンポジストをお願いいたしました。またシンポジウム座長として県立西宮病院の薬剤部次長に協力していただきました。

当日はなんと1230人が参加する賑わいとなり、TIME誌の「2011年世界で最も影響力のある100人」に選出された菅野先生の基調講演「困難を乗り越える力～東日本大震災の経験を通して」は立ち見が出るほどの盛況でした。分科会は16テーマに257題の演題が多職種から発表され、活発な意見交換が行われました。シンポジウムでは、阪神淡路大震災以後の20年間の振り返り、新型インフルエンザ・エボラやMERSなど新興感染症の発生時における兵庫県の対策(感染症指定病院の役割と一般病院の役割など)、アウトブレイクの早期発見への方策、医療安全の考え方、救急認定薬剤師配置の効果、が講演されました。引き続いてのディスカッションでは、新興感染症対策でのシミュレーションや防護服の着脱練習など「日頃からの訓練が大事」という考えはあらゆる災害にも通じるものであることが参加者全員で確認されました。また、基調講演の菅野先生から、災害はすべての職種が揃っている時に起こるとは限らず、災害訓練は必要であるが、実際の時には職種をこえた共同作業が必要になるとのコメントをいただき、非常に得ることが多いシンポジウムになりました。参加されたすべての皆様、学会の開催運営にご協力いただいた病院局や疾病対策課ならびに他の県立病院から選出された企画運営委員や協力員の方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。